

一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 144号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期21年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4200日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は266名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



核兵器廃絶に向け、9月市議会での意見書採択の報告シンポ開催の街頭宣伝

9月越谷市議会で自民党だけが反対したが「核兵器禁止条約の締約国会議に日本政府はにオブザーバー参加を求める」意見書が賛成多数で採択された。

これを受けて、越谷市議会議員有志の会が主催する「世界の核をなくすための、議会と市民の役割」―9月越谷市議会の市民請願採択を受けて一の集会を10月14日に開催する。

そのため、市民参加の呼びかけのため案内チラシを作成し、地域での配布宣伝とともに議員有志の会は、10月7日午後5時から午後7時まで、越谷駅東口を会場に議員や市民が次々とマイクを握り、ノーベル平和賞に選ばれた日本原水爆被害者団体協議会の活動評価や広島市、長崎市の被爆79周年記念集会へのイスラエル大



使の招待問題等と9月越谷市議会での意見書との関連性をそれぞれの言葉で訴えた。

駅前には、通勤帰りの会社員や買い物途中の女性、学校帰りの高校生等が演説を聞きながら案内チラシを受け取って行く。

反応の良さに、やっぱり人類と核は共存出来ないことの確信を得た。

ユーチューブチャンネルを活用してライブ配信しているので、チラシに掲載しているアクセス先にスマホで入力する市民も見受けられた。ただ、解散総選挙が10月15日に告示されることもあり、どこの政党、候補者？と聞いてくる市民もいた。こちらにも関心の高さが示された。(10月10日・木曜日)

裏金問題だけが、選挙の争点ではない。地域社会をどうして行くのか聞きたい

今朝の駅立ちは北越谷駅東口で、何時もの通り午前5時50分から市政レポートの配布を開始した。次々に常連の市民の皆さんが市政レポートを受けとり挨拶を交わして行く。

午前7時30分過ぎに馴染みの都内の製菓メーカーに勤める30台の女性から声が掛かった。もうすぐ総選挙ですが、先般政党の幹部が駅前で応援演説を実施していたが、全く馴染みがなくその幹部も候補予定者も知らない。もっと日常的に街頭宣伝に取り組まないと政治が身近にならない。白川さんの様にやればいいのか、と話された。

更に午前8時過ぎに30台サラリーマンの方から同様に解散総選挙に関して、裏金問題に大きな焦点が当てられており、(裏へ)

大事な争点ではあるが、これ以外にも社会保障を今後どうするのか、非正規雇用の拡大について雇用問題をどうするのか等これからの社会をどうして行くのかの選択をしなければならない。しかしどの政党からも当面の施策しか聞こえて来ない、との話だった。

この二人の指摘は極めて重要であり、一般的な政党や議員の日常活動の不足問題だけでなく、国政と市政のつながりや論点の整理を日頃出来ているのか、と言う問題。更にこれからの社会や地域をどこからどこへ変えようとしているのか、そのために政策や構造転換をどうするのか、誰がその転換を担うのか、殆どの政党や地方議員、候補者からの発信が圧倒的に不足している、という問題点の指摘だと思いながら午前8時30分過ぎまで活動を続けた。

(10月17日・木曜日)

自由民権150周年、高知民権記念会館で平田オリザ氏の講演を聞いて来た



(写真は、記念館に展示されている明治草創期の自由民権運動の大衆行動)

10月19日、20日の2日間、高知県内を旅行しながら、土佐の自由民権運動や憲法草案を起草した植木枝盛らの挑戦を探索し、中江兆民、幸徳秋水、大逆事件のその後を学ぶイベントに参加して来た。

このイベントの主催は多摩住民自治研究会で、8月に開催された同研究会の地方自治のセミナーに参加したおり、この企画の案内がありその場で申し込みをしていた。

前日の18日から前乗りで高知龍馬空港から高知駅前のホテルに前泊して、19日午前9時から高知市立自由民権記念館で開催された自由民権150年「中江兆民の生きた時代」をテーマに平田オリザ氏(日本の劇作家、演出家、劇団「青年団」主宰、こまばアゴラ劇場支配人、芸術文化観光専門職大学学長。戯曲の代表作に『東京ノート』『ソウル市民』三部作など。小説

『幕が上がる』は2015年に映画化され、第70回毎日映画コンクールなどを受賞。)が、講演した。その中で人が言葉を使う場面は、演説、スピーチ、講座、討論、対話、会話、独り言。

「自由は土佐の山間より」といわれるように、高知は自由民権運動発祥の地で、植木枝盛や中江兆民、板垣退助ら多くの自由民権運動家を輩出している。土佐の自由民権運動は、全国へと広がり日本で最初の国民的な民主主義運動になった。この記念館では、それらの自由民権運動のあゆみを紹介している。また、板垣退助が襲われたときの短刀や自由万歳と書かれた大徳利など、貴重な資料も展示されている。

平田氏の講話では、日本では歴史的に国家が国民を明治以来統制して来たため、上下の関係を前提とした言葉が発せられて来た。そのため横の関係性の中で評価する言葉が生まれなかった。

しかし、欧米では自由や民主主義や国境線が常に移動して来たことから他民族、風習、思考が入り乱れ、結果人々の関係性がフラットになって来た。この欧米と日本の違いから今日でも我々の社会には横の関係性を基点に例えばほめる言葉が生まれていない。ただ近年若い人からこれが生まれ始めている。「かわいい」とい表現方法がその一例だと。更にこれは対話の手法にも表れており、対話は常に相手との違いを認め合うことを前提としている。つまり私はあなたの意見をこの様に理解出来ている、しかしその上であなたの意見に同調出来ない部分があるがこの部分では一致、合意が出来る。と。

この指摘は私が議会活動は当然の事だが、日常の市民同士の関係性の構築にも必須の要件であり、その通りだとストーンと胸に落ちた。

(10月20日・日曜日)

市民税を増税して、賠償負担を肩代わりする「神戸モデル」を調査

10月28日から3日間越谷市議会民生常任委員会では他県への行政調査を実施した。

3つの市の先進事例を学んで来たが、特に神戸市の「認知症神戸モデル」が興味を引いた。

認知症の高齢者が鉄道会社等から徘徊を要因とする家族等への賠償金が請求されるケースがある。この様な事態に対応するため、市民一人年間400円の増税で全額(3億円)を市が賄っている、との点だ。(10月30日・水曜日)